

平城遷都1300年祭

古代ロマン 氷室の氷献上

古代、大和高原「^{つけ}鬮（都祁）の国」に氷室なるものが存在。厳寒期に氷を切り出し、土を掘った中に茅を敷き、そこに氷を並べ、さらにその上に茅荻を敷き詰めて保存。夏になると、取り出して朝廷へ献上したという。

このことは、日本書紀や昭和63年の平城宮跡発掘調査にて「長屋王」跡から出土した木簡にも記されています。

福住「未来（ゆめ）クラブ」は、古代鬮（都祁）の国と呼ばれていた天理市の福住校区（福住町・山田町・長滝町）の町おこしのひとつとして、平成10年（1998年）に氷室を再現し、翌平成11年より毎年、3トン（初年度は4トン）の水を2月に納め、7月に室を開けて、氷まつりを開催してきました。

12回目となる今年は、平城遷都1300年祭に合わせて、古式豊かに古代のロマンに夢を馳せ、7月24日（土）朝6時、再現氷室で五ヶ月間貯蔵した氷を大八車に乗せて福住再現氷室前を出発、1300年前に通ったであろう道をたどりつつ、23キロの道のりを6時間30分かかけ、大極殿前まで運び、献上しました。



再現氷室（福住町井之市）



① 7月24日朝6時氷室前出発



② 早朝の福住町内



③ 八伏峠を越え急な下り坂



④ 奈良町あたりを平城京へ



⑤ 酷暑の中をもくもくと



氷室の水・献上ルート



⑥ 6時間30分かかけて大極殿到着

福住未来クラブ 天理市